



CAGLIERO 11

カリエロ



166 2022年 10月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

この7月、南米サウスコーン地域で、サレジオ青年運動に関わる十代の子どもたちや青年たちの宣教体験が行われました。サレジオ宣教ボランティア計画を形づくるさまざまな若者のグループや宣教体験は、交わりと参加が促進される、開かれた、温かく人を迎える教会のあり方、「出向いて行く教会」の顔を若者に示す良い方法です。

青少年司牧の宣教の視点は、連帯の文化に寄与します。それは、実に多様な人々への、特に最も弱い立場に置かれた青少年への神の愛のあかしです。それは、イエスとの出会いから生まれ、サレジオ青少年霊性の体験によって養われる、自分の生活における宣教の次元を真剣に受けとめることです。そのような宣教体験は、若者たちの成長と召命識別のための肥沃な土地となるのです。

Sergio Ramos de Souza

■ 宣教促進
南米サウスコーン地域
コーディネーター
セルジオ・ラモス・
デ・スーザ神父, SDB

宣教師：メシアではなく、預言者



イエスは復活された後、弟子たちに、行って人々を弟子にし、洗礼を授け、教えるようにと任務を与えました。ご自分がいつも共にいてくださるという約束とともに(マタイ28・18-20)。私たちは、イエスが弟子たち皆に命じられたことによって、洗礼を通して**私たちは宣教する弟子である**という理解に至ります。あらゆる機会をとらえてすべての民と福音を分かち合うために、遣わされます。実に、福音を分かち合い、洗礼という賜物を差し出すことは、キリスト者としての私たちのアイデンティティーの一部なのです。

使徒パウロは、アジア各地で、ローマやスペインで、キリスト者共同体を創設した最も偉大な宣教師と考えられています。このことは、すべてのキリスト者がさまざまな文化を横断する宣教師となるよう呼ばれているということでしょうか？ 使徒言行録13章2-3節はヒントをくれます：「彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さない。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。』そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。」このように、すべてのキリスト者が**福音を分かち合う熱意を持つ**べきですが、自分の国や文化の外へ出かけて行くよう呼ばれる人もいれば、とどまって自国で福音を分かち合うよう呼ばれる人もいます。

「宣教mission」は、「遣わす」という意味のラテン語の言葉に由来します。宣教師とは、信仰と洗礼の賜物を**分かち合い、伝え、告げ知らせる**ために「遣わされる」人です。行き先はどこでもかまいません。どの大陸、どの国でもありえます。

聖書で預言者とは、神の名によって、神の権威によって語る人でした(出エジプト7・1)。預言者の使命は、約束に忠実であるよう神の民に思い起こさせることです。すべての**宣教師は預言者です**。イエス・キリストを通しての神の救いについて、人々に告げるために遣わされます。

宣教師がこれを自らの優先事項としないなら、実際、単なる社会活動家、福祉事業にたずさわる人に過ぎなくなり、人道活動を行う数多くの団体と何ら変わらないこととなります。

今日、いまだに大多数の人々が宣教事業を、アフリカ、社会福祉事業、森やジャングルと結びつけます。それは間違いではありませんが、狭い考えであり、宣教師が招かれているすべてのことを十分に包括していません。また、宣教師が人々の物的必要をまかなうことに過剰にとらわれてしまう危険がそこにあります。ユダヤ人がイエスに求めたメシアのように。

実に、宣教師は預言者であり、メシアではありません！

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父 SDB

振り返りと分かち合いのために

- 私は宣教する弟子として、誰に福音を告げるため遣わされているだろうか？
- 自分を預言者ではなくメシアにしてしまう、どのような誘惑があるだろうか？



宣教のために「出向いて行く」

— チリの体験

ドン・クラウディオ、教皇フランシスコは教会がすべての人に開かれていなければならないと、たびたび私たちに思い起こさせます。この点で、チリではどのような状況ですか？

今、教会は10月に行われる教会集会に向けて識別の道をたどっています。私たちは、教皇フランシスコが2023年に開催を招集したシノドス：「ともに歩む [=シノドス的] 教会のため - 交わり、参加、そして宣教」の道を進んでいます。この道のりは、チリの教会が今後、何年にもわたって取り組むことになる挑戦を明らかにします。その中のいくつかを挙げると：人間関係の問題、すなわち虐待・ハラスメント、聖職者主義、女性の役割が二次的なものにとどまっていること、若者の参加が十分でないことなどから来るものです。また洗礼の恵みを中心として、より深く、成熟する道を示すという挑戦も挙げられます。

最も弱い立場にある人々の間で、使徒的取り組みが広がっています。この人々はすでに絶えず不安定な状況に置かれていましたが、さらにパンデミックの痛手を大きく受けました。教会は、数多くの移民、ホームレス、自由を奪われた人々を支援するネットワークの一端を担う存在として際立っていました。

教皇が心にかけているもう一つのテーマは「宣教に向かうこと missionary outreach」です。神父様のサレジオ会管区は、この挑戦にどのように応えていますか？

サレジオ会の事業が、無償の質の高い教育の提案を通して、家庭と労働者層の人々に確実に奉仕するものであるようにしながら、この国の最も貧しい若者たちの中で奉仕するという一貫した姿勢を、私たちは取っています。加えて、新たな取り組みの道を開いています。例えば、高等教育の世界、また、開かれた運動場・遊び場を通して社会のますます疎外された弱い部分の中で活動を根づかせています。私たちは正規の勉強を補う活動を提供し、それによって子どもたちは社会に入りその一員となることができます。

私たちサレジオ会メンバーと教会の外にいる若者たちの間の対話を促進するために何ができるでしょうか？

鍵となるのは「共にいること」です。裁くことで距離を作ってしまうのではなく、教会の内向きの関心を超えて、共にいることです。若者と教会の間の溝は広がっていますが、サレジオの霊性には類ない特質があり、その距離を縮めさせ、若者の必要と探究に寄り添うことを可能にします。私たちは、自分たちの都合にこだわらず若者たちを「採用」します。先入観で相手を決めつけることを避けます。相手を決めつけることは、若者と大人の間の不信感を大きくしてしまうのです。



クラウディオ・カルテス神父, SDB

チリ出身、39歳。2009年に終生誓願を宣立、2011年に司祭叙階。現在、チリで最初のサレジオ会支部、**コンセプション**の院長。

「アメリカ大陸のサレジオ学校 (ESA)」および職業訓練センターのコーディネーターとして、**青少年司牧部門**のメンバー。

チリ管区の青少年司牧**テレガート**を6年間務め、サレジオ・カトリック大学のチャプレン、パタゴニア・チレナの**サン・ホセ・サレジオ高校**の司牧担当者を務めている。

フ オ ー ラ ム

ラテン・アメリカの宗教

- 近年の調査 (2020年) によると、ラテン・アメリカ **18** か国の回答者の約 **57%** が **カトリック** 信者であると答えた。
- **カトリック 57.1%** ○福音派 (教派の特定なし) **19.1%** ○無宗教 **16.6%** ○その他 **7.2%** (○無神論 **1.1%** ○福音派ペンテコステ **1.1%** ○再臨派 **0.8%** ○エホバの証人 **0.8%** ○特定の宗教に属さず神を信じる人 **0.7%** ○福音派バプテスト **0.4%** ○モルモン教 **0.4%** ○プロテスタント **0.3%** ○アフリカ系アメリカのカルト-ウンバンダ **0.3%** ○不可知論 **0.3%** ○福音派メソジスト **0.1%** ○その他 **0.8%**)



10月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

皆に開かれた教会

チリのサレジオ会管区と教会のうちに、
真の対話と相互理解がありますように。

教会のために祈りましょう。忠実に、勇気をもって福音を宣べ伝え、共に歩むシノドスの精神をいつも
生きながら、連帯、兄弟愛の共同体、温かく迎える共同体でありますように。| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

チリのために

